

日本地震工学会
原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会(耐津波工学委員会)

(9. 一般防災との関連 骨子)

9. 一般防災との関連

(1) 津波に対するハード対策とソフト対策

津波防災は、堤防などの構造物によるハード対策と、警報や避難を中心とするソフト対策を組み合わせる総合的に計画されてきた。

(2) 二段階の津波規模設定

数百年以上の再現周期となる巨大津波に対しては、構造物のみによる対策には限界がある。ソフト対策においても、具体的な津波規模を設定する必要がある。

(3) 粘り強い構造物の開発

設計を超える外力に対しても、粘り強く機能を発揮する構造物の開発が必要である。

(4) 沿岸の重要施設との関連

沿岸部には各種工業施設、化学プラント、発電所などの重要施設が存在するため、巨大津波におけるこれらの施設の挙動を別途検討する必要がある。